

令和7年度 石川県精育園 地域連携推進会議 議事録

令和7年11月14日(金)

10:00~11:20

場所:日中活動支援室

1. 構成委員の紹介

- 浦 登亀夫 様 (石川県精育園 保護者会 会長) **都合により急遽欠席**
- 河元 寛泰 様 (医療法人松原会 七尾松原病院地域支援部 部長)
- 寺下 博史 様 (北陸中日新聞穴水専売所 所長)
- 鳥越 豊子 様 (穴水地区更生保護女性会 会長)
- 橋本 恵理 様 (穴水町役場 住民福祉課 係長)
- 牧木 恵子 様 (石川県精育園 利用者)

精育園職員

- 田中 こず恵(園長)
- 畑中 真希(課長)
- 川島 大和(サービス管理責任者)

2. 石川県精育園について(概要及び事業の実施状況に関する現状報告)

- *田中より、パワーポイントの資料をもとに説明

3. 質疑応答

- *新施設が完成するまでの間に、再度利用者が別の場所で生活しないといけなくなるのではないかと心配

→別地へ移転となるため、新施設が完成して引越しできるまでの間は、このまま現精育園での生活を継続することはできる。

- *県知事は精育園を訪問したことがあるのか？

→地震後に1度だけ訪問され、被害状況の確認をされただけである。

- *利用者は、能登の方が多いのか？

→約9割が奥能登・中能登地区の出身である。

4. 意見交換

- *牧木さんは、精育園に入ってからどのくらい経ちますか？地震後、錦城学園に1年避難して、精育園に戻ってきての生活はどうか？

→何歳の時からか忘れたけど、精育園には、前の所(由比ヶ丘)にあった時からいます。昔は刺子？の仕事をしていたかな？皆より手が遅くて、農作業はしたことはありませんでした。錦城学園での生活、今の生活もどっちも良いです。錦城学園は、ご飯もおいしかったし、いろんな行事もあったし、夏には花火も見ることができて良かった。

*利用者がとても細かくきれいな作品をたくさん作られており、素晴らしい。また、作品展示など、地域へ障害者の創作活動等を知ってもらう機会が多くあることは良いことだと思う。町としても、色々なイベント等を企画して利用者の日頃の活動を知ってもらったり、利用者が地域の方と交流できる機会がもてるように一緒に協力していきたい。やはり目標となるものがあると、利用者も楽しみややりがいをもち取り組めると思う。

*更生保護女性会のメンバーは、花の苗や大きい白菜・大根・立派なニンニク・葉ボタン等の販売をととても楽しみにしていた。園祭はとくに楽しみだったし、時期によって花等の苗を道路沿いの青空市場へ買いに来たりしていて、そのお金が精育園に還元されることで、循環があっていいなあと思っていた。園祭では、穴水高校の生徒さんがボランティアでレジの手伝いをしていたことも、良い社会体験の機会だと思って見ていた。もし可能であれば、今後また少しでも花苗等を販売できるように取り組めないか？ そうなったら嬉しいし、是非また買いに来たい。

→以前は利用者ももっと元気な方が多く、園芸専門の職員も雇用していたので可能だったが、今は職員も減り、作業が出来る利用者も減り、活動をかなり縮小している。利用者が試食等で楽しめる程度の菜園活動しかしていない状況である。

*地震後、土地の問題で畑が出来なくなったとか、園芸が好きだけど仮設暮らしで思う存分できない・といった人もいるので、地域からボランティアを募集して園芸活動に協力してもらってはどうか？

→花の苗を是非再販してほしい等、期待の声をいただいたので、今後活動を広げられるかどうか、また職員間でも検討してみたいと思う。

*今後のますますの人材不足が心配。もっと地元の学生(穴水中や穴水高校)に、地元の福祉の職場について知ってもらい、今は福祉職への希望はしていなくても、将来的に地元で働きたいという希望が生まれてUターンし、福祉職に就こうかと思うきっかけに繋がる可能性も含めて、福祉人材の育成に関する取り組みが必要ではないか？

→学生や学校側からそのような企画が発信されることは少ないため、施設側から職場体験や交流する機会をもっと働き掛けていく必要があると思う。今年度穴水高校生向けに行ったような福祉教育企画のように、今後も継続して福祉の職場の魅力や障害のある方々を知ってもらう機会を積極的に作っていきたいと思う。

*成年後見人制度を利用している人はたくさんいるのか？

→全体の4分の1ほどに後見人または補佐人が選任されており、その他の方は、成年後見制度はまだ利用していない状況だが、利用者はほぼ全員が、後見人または保佐人の対象になり得る方で、今後制度の利用が必要な方は増えると思われる。